

「出題の意図」

選抜区分	2021年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 外国語学部 国際関係学科（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>【出題の背景】 小論文は、英文の資料1とそれに関連する和文の資料2の2つで構成される。資料1はKate Mayberry, “Third Culture Kids: Citizens of Everywhere and Nowhere”(BBC Worklife, 19th November 2016)、資料2は山脇岳志「帰国子女から見たニッポン——異端が異端でなくなる日は来るか」(『朝日新聞 GLOBE+』、2019年7月20日)からそれぞれ一部を抜粋・変更して出題した。</p> <p>国境を越える人の移動が拡大する中で、生まれ育った国家とは異なる国家を生活や事業の拠点とする人が増えている。両親の生育国とは異なる国で生まれ育つ子どもたちも増えている。そのような子どもたちは、両親の生育国の文化と、自身の生育国(育った国が複数ある場合もある)の文化に影響を受けうることから、「サードカルチャーキッズ」と呼ばれることがある。本問題はサードカルチャーキッズがどのような利点と課題をもちうるのかを2つの資料から読み取り、課題を捉える視点の違いを論述する問いを課した。</p> <p>【求める能力】 問1は、資料1の英文を日本語で要約する問題である。国際性を帯びた社会問題について英語で書かれた論説を読解し、その要点を整理するための論理的な思考力と表現力を試す問題である。資料1は、語彙も文法も比較的平易で、高校卒業程度の基本的な英語力があれば十分に理解できる英文である。</p> <p>問2は、外国で生育した子どもがどのような課題を抱え、その課題に対して学校を中心に社会がどのように対応しうるかについて、資料1と資料2の視点の違いを論じるように設問されていた。問の内容は平易であるが、答案の材料となる2つの資料を正しく読み取る読解力と、問に即した形にまとめる論理的思考力・表現力をみる問題である。</p> <p>2. 解法</p> <p>問1は、英語の読解力をみる問題である。資料1は、サードカルチャーキッズを取り巻く利点と課題についての文章で、内容は以下のとおりである。最初にこの文章におけるサードカルチャーキッズの定義が示され(p.1、第1段落)、具体例が挙げられる(p.1、第2段落～第4段落)。次に、サードカルチャーキッズがもちうる利点、すなわち、世界をとらえ</p>

るうえでより広い視野をもち、異文化への関心・配慮をもちうること、「どこでも故郷になりうる」ことが紹介される。他方で、「どこにも故郷がない」という状況も生じうることと、その大きな要因は成長期に繰り返される移動と離別であることが示される (p.1、第5段落)。p.2の4つの段落は、繰り返される移動と離別が子どもたちの心にどのような傷をもたらし、成長に影響しうるかについて事例を紹介している。p.3では、この問題に対する学校を中心とした社会の取り組みを紹介している。

資料1の英文は、語彙・文法は平易で、挙げられている事例は身近な出来事として想像することが可能であり、論旨も明快であり、基本的な英語力があれば十分に読解可能である。しかし答案の中には、資料1を十分読みこなせなかったためか、資料2の内容から類推して解答するものが見られた。例えば、資料1は一貫してサードカルチャーキッズという語を使用しているのに、資料2で用いられている帰国子女という語を用いた解答があった。また資料1にはサードカルチャーキッズがもちうる利点があげられているが、資料2の内容に影響されたためか、利点への言及がない解答も見られた。推測の助動詞 can を誤訳する解答や、university degree を訳せていない解答が多かった。

問2は、設問を熟読し、その意図を踏まえて回答する問題であり、自分の考えや意見を自由に述べる問題ではないことに十分留意してほしい。設問で問われているのは、帰国子女の居場所の危うさがなぜ生じるのか、日本に特有な要因と、日本に限らず国際的に共通しうる要因についてそれぞれ説明することであった。資料1の英文が読み取れてなかったためか、資料2の内容に偏った解答が見られた。また資料を踏まえず、資料とは関係ない事例を引いて、自分の意見を表明するだけの解答も見られた。なお、主語と述語が対応していない文章や誤字・脱字は減点対象になる可能性があるため、十分に気をつけてほしい。漢字の誤字が多く見られた。また、指定された字数にはるかに満たない答案は、得点に結びつかない。

➤受験生への情報提供

本学科の推薦入試対策のカギは3点です。

1. 国際関係に対する関心を養う

国際関係を学ぼうとする学生には、普段の勉強や活動において国際ニュースや身近な国際関係についての関心を持つことが望まれます。

2. 英語力

多様な国際社会で最もよく使われる言語は英語です。英語力を高めるには、高校までの履修内容をしっかり習得することが基本ですが、その応用力も必要です。インターネットや英字新聞を活用して語彙力を伸ばしたり、理解力を高めたりするように努めましょう。

3. 国語力

小論文対策では国語力が重要になります。正しく読み取り、的確に表現できるように、日々の練習を積み重ねましょう。特に、短い試験時間では助詞（「てにをは」など）の使い方が曖昧になったり、主語・述語の係り結びや、修飾語・被修飾語の係り結びがおかしくなったり、論理の飛躍や矛盾が起こりがちとなったりするため、気をつけましょう。漢字を正確に書く力も備えておきましょう。

努力の成果が表れるには時間がかかります。早めに準備を始めましょう。